

# 第5回 オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム

## 東京都品川区立 豊葉の杜学園 開催報告

vol.05  
2020.1

開催日 2019年12月12日（木）

第5回となる「オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム」を、品川区立豊葉の杜学園にて、プログラムテーマ「義肢装具士に学ぶ」を開催いたしました。東京オリンピック・パラリンピックが約半年後に迫り周囲も盛り上がりを見せつつある中、生徒たちも興味を持ってプログラムに参加してくれました。

プログラムは義肢装具士の講義と、義足ユーザで(一社)日本立位テニス協会の代表を務められている柴谷 健氏に、講演と義足パフォーマンスを行って頂きました。講演の後、「義肢・装具」や「障がい」を身近なものに感じてもらうため、質疑応答の時間を10分程度ほど設けました。また、触る機会の少ない義足を手に取って触ってもらいました。

### 講義 ～パラリンピックを支える義肢装具士～

「パラリンピックを支える義肢装具士や障がいを抱えた人々を支える義肢装具」について、義肢装具士による講義を行いました。「パラリンピック」の成り立ちや、その競技を支える「義肢装具士」について詳しく説明しました。会場の生徒達は、初めて聞く「義肢装具士」や、テレビでしか見た事がない「パラリンピック」について興味を持って聴講してくれました。



## 義足ユーザーとの交流

義足を使われて生活している柴谷氏からは、義足を使った歩きや、階段の上り下り動作を披露してくれました。柴谷氏の義足は、人の足に似せたカバー（外装）は付いておらず、義足の部品がはっきりと分かるように製作されていて、LEDライトも取付けられ、カラフルな色で発色していました。これは周りの人に義足を認知してもらう事と共に、注意を促して危険な状況を回避する目的もあるそうです。

さらに、柴谷氏も選手として活躍している「立位テニス」についての活動や競技について講演していただきました。



## 講義終了後の風景

講演終了後、柴谷氏とPO講師で記念撮影をしました。また豊葉の杜学園の校長先生にもお会いし、一緒に記念撮影をしました。



<柴谷氏とPO講師>



<校長先生と柴谷氏>

## イベントを終えて. . .

オリンピックは知っているが、なかなか知る機会の少ない「パラリンピック」について触れられたことは、プログラムに参加した生徒達にとって貴重な時間であったと考えます。そのことから、質疑応答の時間では複数の生徒が質問をしてくれました。また、義足の観覧では興味津々に触っている様子が窺えました。

講演後に実施したアンケートについても、66%の生徒達が自由記述にコメントしていたことから、「義肢・装具」、「義肢装具士」を知っただけでなく、「障がい」、「パラリンピック」に興味を持ってもらうことが出来たプログラムであったと考えます。

## アンケート(生徒の記述感想) ※一部抜粋

- ・自分は義肢装具を使用して過ごしている人について、勝手にかわいそうだと上から目線に見ていましたが、今回のことで義肢装具を使っている人が必ずしも不幸ではないことが分かりました。元気に話していた様子を見てそう感じました。
- ・ぼくはオリンピックも好きですが、パラリンピックも好きで応援したくなります。これを基にパラリンピックを応援したいと思います。
- ・私は病気やけがで足や手を失ってしまった方に生活などが困難にならないように義足などを作り、支えている義肢装具士という職業はすてきだなと思いました。また、今回の義足ユーザさんのようにテニスをやるなど左足を失っても前向きに生きていてすごいなと思いました。
- ・立位テニスは正式なパラリンピックの競技になっていないけれどいつかパラリンピックの競技になって選手の活躍を見たいと思いました。
- ・義肢装具について今まで感じなかったが、今回の授業で理解が深まり関心が高まった。義肢装具をつけて選手として活躍している人はすごいなと改めて思った。
- ・その人その人で義肢装具の形などが変わるのを知っていましたが、あんなに重さがあるのにとっても驚きました。実際に触れてみることでできてとてもよかったです。
- ・障害者でもスポーツができて世界でも活躍できることもすごいと思ったし、そんな人たちをサポートしてスポーツができるようにする義肢装具士は大切な仕事だと思いました。
- ・今日の授業はとてもためになりました。自分でも話をしていただいたことを調べていきたいと思います。
- ・パラリンピックで注目されるのは選手だけですが、義肢装具士が裏で選手を支えているということが分かりました。今まで義肢装具のことなんて考えたことがなかったけれど、とても良い機会になりました。また私たちがケガしたときに使う支える道具(装具)も義肢装具士の方が作っていることを始めた知りました。
- ・障害者ができるスポーツは限られていると思っていたけれど、今日授業をしているいろいろなスポーツを今は障害者ができるようになって良かったと思いました。自分もいつ足や腕がマヒしたり病気になったりしないように日々鍛錬していきたいです。
- ・義肢装具に関してのことはあまり学んだことがなく、実際に見たこともなかったのが良い経験になった。障害のある方一人ひとりに対してきちんと向き合ってより良い生活のために調整する義肢装具士さんの姿勢は自分も見習わないと思った。

## アンケート(生徒の記述感想) ※一部抜粋

- ・義肢装具はすごいと思いました。足がなくなってしまうとしても、義肢装具がこの世界にはあるので助かった人が大勢いると思います。その「義肢装具」を作った人についてもっと知りたいと思いました。パラリンピックはあまり観なかったのですが、この機会を通して様々な競技を観戦して、日本の方から外国の方まで応援していきたいなと思います。
- ・普段の生活の中では義肢装具を近くで見たり、実際に触ったりできないので、今回実際にまじかに見れてとてもよかったです。また、パラリンピックの歴史も知ることができたのもとてもよかったです。本日は、お忙しい中、教えに来てくださりありがとうございました。
- ・今日は貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。なんとなく聞いた事はあるものの、あまりはっきりとした情報を持っていなかったなので、今回この様な授業を通し、様々な学びが感じられ、また新たに、パラリンピックへの関心がわきました。一人ひとりに合わせた器具を作るなんて、とても大変な作業なんだと思います。表だけではなく陰ながら支えてくれている方も沢山いるのだと実感しました。
- ・義足をつけている人と、つけていない人の走り幅跳びの記録にとっても驚きました。最近の技術が発達しているのを知っているけれどさらに知れたと思います。
- ・ぼくはパラリンピックの選手とオリンピック選手が同じ協議をしたらオリンピックの選手が圧勝かと思っていたけど、今回みたビデオの中で記録がほとんど変わらなかったのを見てパラリンピックの選手もすごいなと感じました。
- ・義肢装具士の人もすごいと思いましたが、義足ユーザーがケガを乗り越えたのが一番すごいと思いました。パラリンピックにも興味を持ちました。
- ・義肢装具士の話の話を聞いて義肢を作って終わりにしてはいけなくて、そのあとが一番大切なことが分かりました。  
正直、パラリンピックはオリンピックに対してマイナスなイメージがありました。でも今回の学習を通して、「たくさんの夢がある大会なんだ」「努力がないとできないんだ」と前向きな考えに代わりました。来年にはついに大会が始まるのでパラリンピックも観てみたいです。パラリンピックや障害を抱えている方に今回の講演で興味を持つことができよかったです。ありがとうございました。
- ・義足はスポーツによって形が変わっていることを聞いて興味があった。  
パラリンピックなどを見るときは義足などにも注目してみたい。
- ・障害を持つ人は生まれつきの人もいれば、事故の後遺症でなってしまった人と自分たちもそうなる可能性があることを知りました。「かいそう」と思うのではなく「頑張れ」と思うことで相手との心の距離が知事待っていくと思いました。
- ・今日パラリンピック、義足についてのお話を聞かせて頂きパラリンピックの事や、障害を持つ方でもとても楽しくスポーツができるのは素晴らしい事だと思いました。また、手や足など、体が何不自由なく使えることのありがたさにあらためて気づきました。オリンピックだけでなくパラリンピックもたくさん知ってもらえたらと思います。貴重な時間を本当にありがとうございました。
- ・義足の生活になると前向きに生きていけないのかなと思っていたけど前向きに生きていける人だなと思った。